

欧州の13カ国と交信成功

依佐美送信所記念館で公開実験

アマ無線クラブがモールス信号で

昭和初期、日本で初めて長波によるヨーロッパとの無線通信を行い、当時の送信機が保存展示されている高須町の依佐美送信所記念館で13日、デンソー幸田アマチュア無線クラブの柏田啓介さん、野田町ら6人が公開実験を行い、短波によるヨーロッパとの無線交信に成功した。



ヨーロッパと交信するためモールス信号を打電する柏田さん

柏田さんは同記念館のアンテナを設置してガイドボランティアのモリス信号による交信のメンバー。刈谷市信を試みた。教委の許可を得て出力13、14の両日、ドイツの無線機器を運び、アマチュア無線連盟50mの無線機を運び、アマチュア無線連盟込み、屋外に高さ8mが交信局数を競うコンテストを実施。多くのアマ無線局との交信が期待できるため、この日を選んだ。

モールス信号で届く相手局のコールサインを聞き取って、素早くこちらのコールサインを送信。双方が交信を確認した段階で次の相手局を探すという方法で約3時間、実験を行った。

その結果、クロアチア、ドイツ、イタリヤ、スウェーデン、ハンガリー、ロシアなど13カ国25局との交信に成功。同記念館の見学に訪れた家族連れがモールス信号を素早く打電

する様子を興味深そうに見つめていた。「期待以上に多くの国との交信ができた。昔はヨーロッパと交信するのに高さ50mの鉄塔が8基必要だったが、今では小型の無線機で同等の通信ができる。一方ではモールス信号の仕組みは昔も今もほとんど変わらなない。こういうことも知ってもらえたら」と柏田さんらは話していた。